３月　「自殺対策強化月間」・・・厚生労働省は、様々な悩みや問題を抱えた人々に届く「当事者本位」の施策：「いのちを守る自殺対策緊急プラン」(H 22.2.5)を展開します。

十島村教育委員会だより　平成30年２月号

さわやかトカラ情報

南北１６０㎞
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒 892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL　099-227-9771

２月・・・精進するとは

十島村教育長　有　村　孝　一

　今年の２月は全国的に大変寒い日が続いています。北陸地方では３ｍとも４ｍともいう積雪量になっているといいます。一因に「ラニーニャ現象」があるといわれ、偏西風がかなり蛇行してその影響で、北からの寒気が急速に発達しながら流れ込んでくるというのです。
　一方で、連日氷点下の中、熱い戦いが繰り広げられていることがあります。平昌（ピョンチャン）オリンピックです。メダル確実と言われながら逃した選手。さほど注目されずに獲得した選手。それぞれ運不運もあるでしょうが、本番の舞台に立つまでは、人には言えない歯を食いしばるような思いがあっただろうと思います。
　人が何故オリンピックに感動するのか。それは、ジャンプ、スキー、スケートにしても自分たちのそれとは、はるかにかけ離れた技を見せてくれるからだと思います。以前北海道の大倉山のジャンプ台に立ったことがありますが、立つだけで足がすくむような思いでした。何回も何回も練習に練習を積んだ末に勝ち得た技をもって、あの舞台に立っているわけです。それぞれの方法で精進に精進を重ねてきたことだろうと思います。そしてさらにそれは、まだまだ続いていくのです。
　十島村の先生方も努力しています。例年のように、教育論文・実践記録の募集がありました。村内 69 人中　63 人の提出があり、91.3 ％でした。この一年間の自分の指導・研究の成果を論文にまとめるということは、次年度に役立つのみならず、教師としての成長のためにもなります。自分が何を考えて、どう目の前の子どもと関わり、実践や研究に向かい合ったか、自分の歩みをしっかりと振り返るという意味においても、大変意義のあることだと思います。
　とりわけ期限付きのころから論文に熱心に取り組むということは、大変に素晴らしいことだと思います。教育論文は、出すことが目的ではなく、あくまで、自分のためであるということを、改めて思います。そして、次年度へ向けて、どのように取り組むかは、論文をまとめたこの時期にすでに始まっているともいえると思います。教師が学べば子どもが伸びます。それを信じて熱い気持ちで精進していただきたいと思います。
　その教育論文・実践記録の審査会がありました。鹿児島

地区全体では、255 点の応募があったようです。全体の 24.7 ％が村からの応募ということになります。そのうち、38 点の特選でしたが、うち 7 点が十島村という結果でした。
　３月９日からは、パラリンピックが開催されます。同じような熱い戦いを見せてくれることを期待します。春には、もう少し時間がかかるようです。

シリーズ――新聞に投稿１「若い目」
（１月１４日掲載）中之島中学校３年　羽生　伊織

和太鼓部との別れ

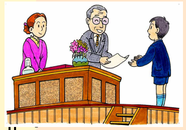
　受験が近づき、小学1年生から続けてきた和太鼓部の卒部式を、下級生たちが開いてくれた。
　人生で初めて、聴く側として仲間の演奏を聴いた。太鼓の振動が、真ん中に座る僕の、体の芯まで伝わった。今までは、後輩たちに教えるためにたたく様子を見ることはあったが、ただ素直に太鼓の音に耳を傾けていることが、自分でも不思議に感じられた。
　去年から1年間部長を務めた。みんなにうまく指示を出せず、何度も顧問の先生からアドバイスをもらった。その言葉は高校生になってから思い出して、役立つときがくるかもしれない。
　演奏後、後輩たち一人一人が言葉をかけてくれて、校長先生が僕たちのために話をしてくれた。話を聞きながら僕は、何度か涙が出そうになった。太鼓をやっていた時は「あまり楽しくない」「やりたくない」と思ったこともあった。しかしこの日、僕は太鼓が好きだったんだと気づいた。
　これから入試まで緊張の日々だが、入試が終わったら、後輩たちとまた演奏したい。

久永ひかり(1/19)
悪石島小６年

南日本新聞掲載
「子供の歌（1/12）」

冬から春
諏訪之瀬島小2年　日高　凪皇

秋終わり
冬にかわって
花おちて
大みそか
年もいっしょに
さようなら
冬おわる
きもちいい
きもちいい
春が来る



祝 卒 業！

口之島 3/22　**中之島** 3/10　**諏訪之瀬島** 3/10
平島 3/22　**悪石島** 3/12　**小宝島** 3/12　**宝島** 3/12

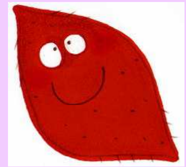
シリーズ―― 十島村で学ぶ
島の文化に誇りをもって
中之島中学校2年　小林ひかる

私は、あと一年で島立ちを迎える。中三の先輩の姿を見ていて、それが強く意識され、中之島での暮らしがとても大切なものに思えてきた。
　私たちの島では、盆踊りや十五夜が地域行事として行われていて、小さいときからあたりまえのように参加してきた。そんななか、去年は、以前から興味のあった歌い手としての役割を担うことになり、とてもうれしかった。練習していると、いっしょに歌ってくれる仲間も出てきて心強かった。
　さらに、社会科で郷土をテーマに調べ学習をすることになったとき、私は迷わずこの郷土芸能を選んだ。調べていくと、海賊与助の霊を供養するための踊りや、奄美に由来する八月踊りなど、昔の人たちの暮らしに芸能が密着していたことがわかった。だが、すでに私たちの見たことがない踊りもあり、寂しくも思った。
　私はあと一年しかこのふるさとの島で過ごすことができない。いや、あと一年ここで過ごすことができる、と考えて、島での催しや伝統行事を楽しみ、島の文化に誇りを抱いて島立ちの日を迎えたい。

故郷に赴任 離島教育へ決意新た
平島小学校　教頭　平田歩実
(平成３０年１月２５日南日本新聞「ひろば」掲載)

　十島村に赴任し、はや１０か月が過ぎた。管理職として初めての赴任地であり、中学校まで過ごした故郷である。教員になった大きな理由が、子供時代の「先生たちとの出会い」である。
　３０数年前の十島村は、現在のようなネット環境はなく、情報収集の手段や物流、人の交流も限られたものであった。そんな時代、私にとっての学校の先生は憧れだった。何でも知っている先生はキラキラと輝く存在だった。「島の子だからと諦めるな。やればできる」と叱咤してくれた。先生たちに尊敬と感謝の気持ちを抱きながら、１５歳の「島立ち」を迎えたことを改めて思い出す。
　赴任後、一通の手紙が届いた。中学時代の教頭先生夫人からだった。先生夫妻が転勤の際、当時中学２年生だった私は、感謝の気持ちをつたない文字と文章で手紙にしたためて渡していた。そのコピーとともに、昨年他界した先生が、亡くなるまでずっと大切に持っていたことが記されていた。
　熱き想いを持って離島教育に尽力してくれた、先生の笑顔が脳裏によみがえり、涙がほろほろとこぼれた。今度は私が子供たちの可能性を広げる番だ。何度も何度も手紙を読み返し、教師としての決意を新たにした。　（十島村）

シリーズ―― 十島村で学ぶ
よろこんでもらえてうれしいな
小宝島小学校3年　岩下和矢



　毎年、５月に学校農園でサツマイモのなえの植え付けをします。農園は学校から１キロメートル近く離れているので、草取りに毎日のようには行けません。サツマイモが実るまでは、農園の草取りに何度か行きました。草取りに行くたびに、なえが大きく長くなっているとしゅうかくが楽しみになります。
　２学期の大きな行事もほとんどおわった１１月にサツマイモのしゅうかくがありました。
　いものつるをひくと、「ズボズボズボッ」と土からサツマイモたちが顔を出してきました。サツマイモたちが、マンガで見たようにつながってとれると、なんだかわらってしまいます。今年は、先生方が苗を植えるうねにビニールシートをかぶせてくれたので、つちがふわふわしていてほりやすかったです。
　ぼくの担当したうねは、今年もたくさんいもをしゅうかくすることができました。とったいもは、島民みんなで山分けです。みんなが喜んでくれる顔を思うと、ぼくの心もほかほかになります。

【口之島小・中学校からのメッセージ】
教頭　平川　淳一

　赴任して約 8 か月、ここ口之島での仕事や生活にもだいぶ慣れてきました。(いや仕事はまだまだ？）離島・小中併設校は経験済みとはいえ、かなりの少人数ということと初めての仕事に不安を感じていましたが、児童生徒は素朴で元気で一生懸命、先生方は熱心で協力的であり、素晴らしい環境で仕事ができています。十島村ならではのことが多く、これまで休みの度に部活動指導に励んできた私にとってはそれが新鮮で楽しいところです。例えば、今年度は先生方の提案で子ども会主催の口之島夕涼み会を行いました。初めての試みでしたが、地域の方々や関係者の多大な御協力をいただきながら、他の島の実施例を参考に屋台や縁日を楽しんでもらえることができました。また例年 10 月に文化祭、運動会を連日開催しています。多くの島外から帰島、来島される方々を迎え、一緒になって大いに盛り上げていただき、感慨深いものがありました。初めは大変だと思っていたこの取組も口之島の特色だと思いました。また今年は、新聞や広報紙などで口之島の頑張りをたくさん取り上げていただきました。これからの励みになっていること間違いありません。今でも日々学ぶことが多いこの口之島で、これまで赴任された先生方が残してくださったものをさらに発展させ、ここだからこそできる教育活動を模索し、自分自身その一員としてもっと力になりたいと思っています。

【『教職員仲間であるあなた』へ　私からのメッセージ】

　初めてのことであったり十島村ならではのこともあったりして、今まで通りにいかないこともありますが、自分の経験値を高める上でも柔軟性を持って対応していきたいと思っています。それぞれの学校で特色を出し切磋琢磨しながら、ここ十島村を盛り上げていきましょう。